

レーニンの著作の抜粋(タイトル)

総目次

1 科学的社会主義の理論	1
2 マルクス主義者とその生き方	3
3 哲学、宗教	5
4 綱領、綱領上の任務、党、党(員)の任務	6
5 宣伝・煽動・機関紙の役割	8
6 選挙・議会と議会闘争	9
7 党史	10
8 経済闘争・政治闘争・理論闘争、改良と革命、修正主義・日和見主義争	10
9 民主主義と社会主義	12
10 統一戦線とプロレタリアートのヘゲモニー	13
11 民主主義派と自由主義派	13
12 ブルジョアジーのふりまく幻想と資本主義の原動力	14
13 革命的情勢と蜂起	14
14 独裁・ソヴェト権力、社会主義の政治・経済、官僚主義	15
15 新経済政策のもとでの労働組合の役割	18
16 経済学、帝国主義について	18
17 平和、軍国主義、戦争	20
18 民族問題、帝国主義戦争と民族解放闘争	20
19 日本について、日露戦争、日本と米国	21
20 レーニンの考え方、人柄等	21
21 レーニンの人物評	22
22 <全集マメ知識> 言葉、ことわざ等	22

1 科学的社会主義の理論

1-1 問題を唯物論的に見て、ラジカルに提起する

第一巻『いわゆる市場問題について』 P106~107

1893 年秋

1-2 資本論の究極目的(基本思想)

第一巻『「人民の友」とはなにか』 P128~135

1894 年春~夏

1-3 マルクスと以前の社会主義者との違い

第一巻『「人民の友」とはなにか』 P152~153

1-4 歴史的必然性と個人の役割

第一巻『「人民の友」とはなにか』 P155

1-5 あらゆる側面を分析しなければならない

第一巻『「人民の友」とはなにか』 P157~158

1-6 マルクスの弁証法的方法

第一巻『「人民の友」とはなにか』 P160~164

- 1-7 所有についての弁証法の戯画化
第一巻『「人民の友」とはなにか』 P167~168
- 1-8 マルクスにとっての否定の否定の役割
第一巻『「人民の友」とはなにか』 P168~170
- 1-9 労働の社会化とは
第一巻『「人民の友」とはなにか』 P173
- 1-10 科学的社会主義の理論はどのようなものか
第一巻『「人民の友」とはなにか』 P176~185
- 1-11 社会民主主義者が大規模資本主義を進歩的現象と見なしているわけ
第一巻『「人民の友」とはなにか』 P240~244
- 1-12 資本主義の進歩的・革命的作用
第一巻『「人民の友」とはなにか』 P323~331
- 1-13 マルクスの理論の本質
第一巻『「人民の友」とはなにか』 P343~345
- 1-14 事実による証明を！ 唯物論的理解の必要性
第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』 P457~459
- 1-15 資本主義の存立条件
〈マルクスの学説における資本主義の本質的な標識＝商品経済の一般化〉
第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』 P471,473
- 1-16 マルクス主義者は〔切実な要求〕をプロレタリアートの要求としてプロレタリアートが利用するためにマルクス主義者の仕方で定式化せよ
第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』 P544~545
- 1-17 組織されたプロレタリアートの歴史的役割・マルクスとエンゲルスが労働者階級にたいしてなした貢献・社会主義者がしなければならないこと……『イギリスにおける労働者階級の状態』の根本思想
第二巻『フリードリヒ・エンゲルス』 P3~6 1895年秋に執筆
- 1-18 当面の革命の性格と戦い方（修正主義との違い）
第三巻『「ロシアにおける資本主義の発展」第2版の序文』 P10 (1907年7月)
- 1-19 マルクスは二度の研究の上に自分の結論を基礎づけた 1899年末執筆
第四巻『カウツキー『ベルンシュタインと社会民主党の綱領』の書評』 P208~209
- 1-20 マルクスの理論を擁護するわけ
第四巻『われわれの綱領』 P225~226 1899年の後半に執筆
- 1-21 マルクスとエンゲルスの主要な功績
第四巻『ロシア社会民主主義派のうちの後退的傾向』 P274~278 1899年末に執筆
- 1-22 理論の欠如、社会主義の危機
第六巻『革命的冒険主義』 P189(『イスクラ』1902年第23号、8月1日、および第24号、9月1日)
- 1-23 戦術は二つに一つである
第36巻『ロシア社会民主労働党中央委員会へ』 P152~153 1905年9月15日

- 1-24 マルクス主義の弁証法—ブルジョア革命の運動論
 第 15 卷『ブルジョアジーの「左翼化」とプロレタリアートの任務』P390~391
 『プロレタリアー』第 44 号、1909 年 4 月 8 (21) 日
- 1-24-2 マルクス主義の全精神、その全体系は…… 18-8 と同一文章
 第 35 卷『111 イネッサ・アルマンドへ』P262~263 1916 年 11 月 30 日に執筆
- 1-25 事実を歴史的・具体的環境の中で見る
 第 23 卷『統計と社会学』P300~302 1917 年 1 月に「序言」を執筆
- 1-26 大衆は事態を理論的(空論的)にではなく……
 第 36 卷『労働者・兵士代表ソヴェト全ロシア会議に参加したボリシェヴィキの集会での演説』P510~521 1917 年 4 月 4(17)日
- 1-27 マルクスが述べたマルクスの功績
 第 25 卷『国家と革命』P443~445 1917年8~9月に執筆
 参考 第39巻ノート〈マルクス主義と帝国主義について〉P624 1915 — 1916 年執筆
- 1-28 資本主義から社会主義への「飛躍」の鎖全体を左右する一環をつかめ
 第 27 卷『ソヴェト権力の当面の任務』P276~277 1918 年 3~4 月に執筆
- 1-29 運動の進め方
 第 28 卷『プロレタリア革命と背教者カウツキー』P325 1918 年 10 月~11 月に執筆
- 1-30 大衆の支持を受けることの重要性和そのための大衆の政治的経験の必要性
 第 31 卷『共産主義内の「左翼主義」小児病』P81~85 1920 年 4 月~5 月に執筆
- 1-31 革命を根本的に準備すること—プロレタリアートの多数者の獲得—と植民地における運動の意義 注)17-9と同文の抜萃である。
 第 32 卷 『「共産主義インタナショナル第三回大会」(1921 年 6 月 22 日~7 月 12 日)「四 ロシア共産党の戦術についての報告 七月五日」』P511 ~ 514
- 1-32 ブルジョア社会の進化の法則の一つ
 第 45 卷『ヴェ・ヴェ・アドラツキーへ』P369-370 1921 年 9 月 20 日に執筆
- 1-33 目的に即した戦術を取ること
 〈重要な実践的事業と小児病〉
 第 42 卷 『三つのインタナショナルの会議への参加についての手紙』P553~554
 1922 年 2 月 23 日に電話で口述、秘書の控え(タイプしたもの)によって印刷
 〈目的に即した戦術を取ること〉
 第 42 卷 『ジェノヴァにおけるソヴェト代表団の任務についての決定草案』P555~557
 1922 年 2 月 24 日に執筆 手稿によって印刷
- 2 マルクス主義者とその生き方
- 2-1 ロシアのマルクス主義者の闘争の目的 労働者階級の階級的自覚を発達させること
 第一巻 「人民の友」とはなにか P190~191
- 2-2 共産主義者は社会民主主義者と名のらなければならない
 第一巻 「人民の友」とはなにか P307~308
- 2-3 社会主義的インテリゲンツィアの使命
 第一巻 「人民の友」とはなにか P314~318

- 2-4 労働者の組織化のための社会民主主義者の活動
第一巻「人民の友」とはなにか P334~335
- 2-5 勤労階級の思想的代表者たちが行うべきこと
第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』 P420
- 2-6 マルクス主義者の資本主義の批判の方法
第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』 P478
- 2-7 社会民主主義者の実践活動——2つの任務
第二巻『ロシア社会民主主義者の任務』 P323~342 1897年末に流刑地で執筆
- 2-8 労働運動における社会民主主義者の任務
第四巻『わわれれの当面の任務』 P232 1899年の後半に執筆
- 2-9 組織のしかた1 (ヴェ・ア・ノスコフへ1902年8月4日)
第34巻 ロンドンからチューリヒへ P113~117
- 2-10 ほんとうの社会民主主義者とは、社会民主主義者がのぞんでいること
「ほんとうの社会民主主義者」 第六巻 貧農に訴える P440 1903年3月執筆
「社会民主主義者がのぞんでいること」 第六巻 貧農に訴える P444
- 2-11 革命的学生の任務 1903年9月に新聞『ストゥデント』第23号に発表
第七巻 『革命的青年の任務』 P35
- 2-12 運動の進め方、組織のしかたII (1905年11月11日)
第八巻 ア・ア・ボグダーノフとエス・イ・グセフへの手紙 P135~140
- 2-13 党员と呼ばれるに値しない人
第八巻『際限のない逃げ口上』 P218~219 1905年2月~末3月初めに執筆
- 2-14 それをしないことには、社会民主主義者は……
第八巻『政治と教育学との混同について』 P454~457 1905年6月に執筆
- 2-15 困難についてのマルクス主義者の捉え方
第19巻『ヴェ・ザスーリッチはどのようにして解党主義をほうむるか』 P422
『プロスヴェシチェーニエ』第9号、1913年9月
- 2-16 帝国主義戦争と社会主義者 (1916年2月末~3月に執筆 手稿によって印刷)
第41巻『キーンタールにおける第二回国際社会主義者会議』 P463~474
- 2-17 ポリシェヴィキのたたかい方 (1917年5月8(21)日)
第41巻『ペトログラード組織の集会における報告』 P550~551
- 2-18 革命的社会民主主義者の活動の重点
第41巻『現在の情勢にかんする報告』 P561 1917年6月20日(7月3日)
- 2-19 革命前の共産主義者の任務と革命後の共産主義者の任務
第31巻『青年同盟の任務』 P287 1920年10月2日
- 2-20 共産主義者とはなにか
第31巻『青年同盟の任務』 P292~295 1920年10月2日
- 2-21 共産主義者にとって絶望することは 18-18-2と同一文
第35巻『エム・ソコロフへ』 P540~541 1921年5月16日に執筆

3 哲学、宗教

- 3-1 土台と上部構造 書きこみの短評(はやくとも 1908 年 5 月に執筆)
第 38 卷『ゲ・ヴェ・プレハーノフ. 《マルクス主義の根本問題》』 P 373～374
- 3-2 不可知論者 (P147~148) 弁証法的唯物論 (P314~315)
相対的真理と絶対的真理 (P374~375)
第 14 卷 『唯物論と経験批判論』 1908 年後半に執筆
- 3-3 宗教にたいする労働者党の態度について (1909年5月13 (26) 日)
第15卷『宗教にたいする労働者党の態度について』 P392~400
- 3-4 ヘーゲルの著書《論理学》の摘要 第 3 編: 理念 第3章: “絶対理念”
第 38 卷 P190~191、P200 1914 年 9 - 12 月に執筆
ヘーゲルの著書《哲学史講義》の摘要 1915 年に執筆
ヘーゲル全集, 哲学史講義(P214) ギリシア哲学史(P216 ~ 217)
エレア学派(P 219) ソフィストたちの哲学(P239) プラトンの哲学(P251)
- 3-5 弁証法の問題について 1915年に執筆
第 36 卷『弁証法の問題について』 P419~422、P325~329の8行目、P329の9行目から
- 3-6 マルクス主義の全精神は…
典型的なものは…
第 35 卷『ゲ・ジノヴィエフへ』 P237 ~ 238 1916 年 8 月に執筆
マルクス主義の考察のしかた
第 35 卷『111 イネッサ・アルマンドへ』 P262~263 1916 年 11 月 30 日に執筆
- 3-7 哲学者 I
- イオニア学徒の哲学 アナクシマン드로ス (紀元前 610 - 547 年) 第 38 卷 P216
ピュタゴラスおよびピュタゴラス学徒 第 38 卷 P216 ~ 217
ソフィストたちの哲学 第 38 卷 P239
ヘラクレイトス (ほぼ紀元前 530 ~ 470 年) 第 38 卷 P594 人名索引
ソクラテス (紀元前 470 ~ 399 年)
デモクリトス (アブデラの) (紀元前 460 ~ 370 年ごろ)
プラトン (紀元前 427 ~ 347 年) 第 14 卷 P467 人名訳注
ガッサンディ、ピエール (1592 ~ 1655 年) 第 38 卷 P579 人名索引
スピノザ、バルフ(ベネディクト) (1632 ~ 1677 年) 同 P584 人名索引
デカルト、ルネ (1596 ~ 1690 年)
アイザック・ニュートン (1643 ~ 1727 年)
バークレ、ジョージ (1684 ~ 1753 年) 第 38 卷 P589 人名索引
ヒューム、デイヴィッド (1711 ~ 1776 年) 同 P590 人名索引
ドルバック、ポール・アンリ (1723 ~ 1789 年) 同 P588 人名索引
カント、イマヌエル (1724 ~ 1804 年) 同 P580 人名索引
ヘーゲル、ゲオルグ・ヴィルヘルム・フリードリヒ (1770 ~ 1831 年) 同 P593 人名索引
フォイエルバッハ、ルートヴィヒ・アンドレアス (1804 ~ 1872 年) 同 P591 人名索引

- 4 綱領、綱領上の任務、党、党(員)の任務
- 4-1 党綱領はどうつくられなければならないか 社会民主党綱領草案と解説 **重要**
第二巻『社会民主党綱領草案と解説』P77~99 1895~1896年に獄中で執筆
- 4-2 綱領の役割と骨子 1899年末に執筆 **重要**
第四巻『わが党の綱領草案』P244~270
- 4-3 革命党の言葉づかいで 1902年2月末~3月初めに執筆
第六巻『プレハーノフの第二次綱領草案にたいする意見』P28
- 4-4 われわれは活動家をどう組織しなければならないか 1902年9月に執筆
第六巻『われわれの組織上の任務について一同志にあたる手紙』P240~243
- 4-5 マルクス主義者の綱領作成上のポイント
第六巻『われわれの綱領草案にたいする批判への回答』P460~461 1903年6月執筆
正しい理論的解決は煽動の確固たる成功を保証する 7月31日(8月13日)
第六巻 ロシア社会民主労働党第二回大会 16 農業綱領審議にさいしての第一の演説
この挿入は改悪である。それは、意識が自然発生的に成長するかのような観念を生みだす。
第41巻 五 党綱領の総論部分の審議にさいしての発言 P67 7月29日(8月11日)
- 4-6 社会民主党が一瞬間でもわすれてならないこと (1905.4.12)
第8巻『プロレタリアートと農民の革命的民主主義的独裁』P296~297
- 4-7 不断の、一瞬間でもわすれてならないこと 1905年4月20(7)日 **重要**
第8巻『アメリカの「黒い割替」についてのマルクスの所論』P323~329
- 4-8 任務の解決をどの道に求め…… 1905年6~7月に執筆 **重要**
第九巻「民主主義革命における社会民主党の二つの戦術」P94~95
- 4-9 人民の護民官か労働組合の書記か 1905年6~7月に執筆
第9巻「民主主義革命における社会民主党の2つの戦術」P104~105
- 4-10 党の再組織について(秘密活動から公然・半公然……)
第10巻「党の再組織について」P13~24 1905年11月10、15、16日
- 4-11 味方を峻別し、目標を大衆に知らせる 1906年3月24-28日(4月6-10日)に執筆
第10巻「カデットの勝利と労働者党の任務」P264~265
- 4-12 闘争のスローガンはどのように導きださなければならないか 1906年7月に執筆
第11巻「国会の解散とプロレタリアートの任務」P100~107
- 4-13 マルクス主義者でないものの認識のしかた 1907年2月
第12巻『マルクスのクーゲルマンへの手紙のロシア語訳序文』P105~106
- 4-14 民主主義革命の現段階におけるプロレタリアートの階級的諸任務について
第12巻『ロシア社会民主労働党第五回大会のための決議草案』P135~136
1907年2月15日~18日(2月28日~3月3日)に執筆
民主主義革命期のプロレタリアートの階級的任務について 1907年4月1日
第12巻『土地問題と革命勢力』P334~335
- 4-15 われわれの任務 1907年11月~12月に執筆
第13巻『1905~1907年のロシア革命における社会民主党の農業綱領』P436~438

- 4-16 **どんな活動が必要か**
第 15 卷 『学生運動と今日の政治情勢』 P202~205 1908年10月3 (16) 日
- 4-17 **党 (員) の任務**
第 15 卷 『大道へ』 P339~341 1909年1月28日 (2月10日)
- 4-18 **党はさまざまな色合を含む** **重要**
第 15 卷 『プロレタリアー』 拡大編集局会議』 P418~419 1909年7月3 (16) 日
党内分派について 1909年9月11 (24) 日
第 16 卷 『召還主義と創神主義の支持者の分派について』 P40~41
- 4-19 **(ボ) の運営費の経費削減の取りくみ** 1909 年、はやくとも 10 月にパリで執筆
第 43 卷 『ボリシェヴィキ中央部運営委員会へ』 P261~264
- 4-20 **党建設における組織の柔軟性** ——大衆団体と党との関係——
第 41 卷 『六 組織問題についての演説』 P310~312 1912 年 1 月 11 (24) 日
- 4-21 **党はどこにあるか** ——どこになければならないか! —— **重要**
第19卷『拙劣な行為の拙劣な擁護』 P473~474 1913 年 10 月 17 日
- 4-22 **党の任務……大衆の主要な根本的な不幸を取り除く運動** **重要**
第 2 3 卷 「スイス社会民主党内のツィンメルヴァルド左派の任務」 P150~155
1916 年 10 月末~11 月初めに執筆
- 4-23 **最小限綱領について** 1916 年 12 月 7 (20) 日以後に執筆
第 41 卷 『マクシマリズムについての論文にかんする意見』 P482~484
- 4-24 **社会民主労働党から共産党へ**
第 24 卷 「現在の革命におけるプロレタリアートの任務について」 P6 1917.4.7
二重権力について(ソヴェトとパリ・コミューンの特質を述べている)
第 24 卷 『二重権力について』 P21~24 1917 年 4 月 9 日
党の名称を改める理由 1917 年 3 月 7 日から 12 日 (20 日から 25 日) のあいだに執筆
第 41 卷 『『遠方からの手紙』 (第5信) の下書き P496~497
- 4-25 **わが党の名称はどのようなものであるべきか?** 1917 年 4 月 10 日
第 24 卷 『わが国の革命におけるプロレタリアートの任務』 P69~73
- 4-26 **共産主義者か社会民主主義者か?**
第 39 卷 帝国主義主義論ノート 《『ニュー』》 P470 1915-1916年に執筆
- 4-27 **労働者の意識を明晰にせよ!そして組織せよ!** 1917 年 5 月 16 日 (3日)
第 24 卷 『ロシア社会民主労働党(ボ)第7回(四月)全国協議会決議集の序文』 P324~326
- 4-28 **小農(小生産者)に対する態度**
第28卷『モスクワ党活動家会議』 P210~212 1918. 11. 27
- 4-29 **共産党にとって肝心なこと**
第29卷『ジルヴィア・パンクハーストへの手紙』 P578~581 1919 年 8 月 28 日
- 4-30 **党の任務・共産主義(者)とは**
第 30 卷 『ロシア共産党(ボ)第八回全国協議会』 P178~181 1919 年 12 月 20 日
- 4-31 **共産党の組織方針と活動方法について** 1920 年 7 月、おそくとも 4 日に執筆
第 42 卷 『共産主義インタナショナル第 2 回大会関係資料』 P258~262

- 4-32 共産主義インタナショナル第三回大会 1921年6月22日ー7月12日
 〈系統的な、ねばりづよい組織活動〉〈革命の戦術、労働者階級の多数者の獲得〉
 第42巻『共産主義インタナショナル第三回大会』P423~433 6月10日に執筆
- 4-33 共産主義インタナショナル第三回大会 4-32の続き
 〈総攻勢が近ければ近いほど〉〈ファシスト反対闘争の意義も述べている〉13-7も同文
 第42巻『共産主義インタナショナル第三回大会』P434~440 1921年7月11日
- 4-34 ソヴェトロシアの経済建設 重要
 第33巻「十月革命四周年によせて」P44~46 1921年10月14日
 注)本文と14-32と17-3で「十月革命四周年によせて」の全文である。
- 4-35 革命の目標が党名を決める
 第42巻『モンゴル人民共和国代表団との会談』P494~496 1921年11月5日
- 4-36 閉ざされた会場にはいりこむ ——労働者のあいだで多数を獲得するために——
 第33巻『われわれは払いすぎた』(電話による口述)P344 1922年4月9日
 注)この抜萃は「10-6 統一戦線戦術の意義」と同文。
- 4-37 大会への手紙 一極秘に！ 重要
 第36巻『大会への手紙』、『ゴスプランに立法機能をあたえることについて』、『(中央委員の増員について)』『少数民族の問題または「自治共和国化」の問題によせて』
 1922年12月23日~23年1月4日 エム・ヴェ、エリ・エフこれらを筆記
 スターリン(スターリンは粗暴すぎる)、トロッキー等の評価を含む。
- 5 宣伝・煽動・機関紙の役割
- 5-1 マルクスとエンゲルスの新聞利用
 大月版『資本論』第3巻 第一分冊 注解P8〔57〕
- 5-2 機関紙の水準と煽動について 重要 1899年末に執筆
 第四巻『ロシア社会民主主義派のうちの後退的傾向』P300~304
- 5-3 雑誌と新聞の役割の違い、新聞を手段とする煽動のあり方について 重要
 第四巻『イスクラ』および『ザリヤー』編集局の声明草案 P353~358
 1900年春に執筆
- 5-4 スローガンの意義 1901年6月に執筆
 第五巻『ゼムストヴォの迫害者たちと自由主義のハンニバルたち』P66
- 5-5 「激烈に」書け！ほか 重要 1901年秋~1902年2月に執筆
 第五巻『なにをなすべきか？』(P410~411)、自分の感性のなさを他人のせいにするな
 (P441)、暴露もせずに行動を呼びかけるな！(P442)、口先だけの「政治家」にならない
 ために(P460~461)
- 5-6 わたしたちは労働者階級の政治意識を発達させるためになにをなすべきか 重要
 第五巻『なにをなすべきか？』P425~428 1901年秋~1902年二月に執筆
- 5-7 全国的政治新聞の意義 重要
 第五巻『なにをなすべきか？』P548~551

- 5-8 ほんとうに生き生きとした機関紙 **重要**
 第七巻『同志諸君への手紙』P562~565 1904年11月29日(12月12日)に執筆
 大衆集会の党にとっての意義 1905年1月9(22)日以前に執筆
 第41巻 論文『1895年と1905年(ちよっとした対比)』のプランP143
- 5-9 機関紙はどう作られねばならないか **重要**
 第34巻『151 エス・イ・グセフへ』P379~380 1905年9月20日
- 5-10 スローガンの意義II 1906年5月に執筆
 第10巻「ロシア社会民主労働党統一大会についての報告」P313~315
- 5-11 煽動で強調すべき点
 第15巻「バルカンとペルシアの事件」P214~216 1908年10月16(29)日
- 5-12 党機関紙の力
 第15巻『ボリシェヴィズムの戯画』P378~379 1909年4月4(17)日
 おくれた新聞はほろびてしまう 1912年7月24日執筆
 第35巻『新聞『ネフスカヤ・ズヴェズダ』編集局へ』P28~29
 労働者新聞のあり方について
 第36巻『新聞『プラウダ』編集局へ』P212~213 1912年10月に執筆
 ブルジョアジーの宣伝とプロレタリアートの宣伝
 第19巻『ブルジョア諸君の「勤労」農業論』P388 1913年9月11日
 労働者新聞が提供すべきこと、提供すべきでないこと
 第20巻『ア・ボグダーノフについて』P122 1914年2月25日
- 5-13 控え目な態度は誤解の種子をまく 1914年3月23日以前に執筆
 第36巻『新聞『プーチ・プラウドィ』編集局へ』P302~304
- 5-14 二種類の『プラウダ』 **重要**
 第36巻『われわれの任務』P311~313 1914年4月22日
- 5-15 中心的で、戦闘的で、プロレタリア的でないスローガ 1915年12月21日
 第21巻『国際主義的言辞による社会排外主義的政策の擁護』P450
- 5-16 スローガンについて 1916年8月~10月に執筆
 第23巻『マルクス主義の戯画と「帝国主義的経済主義」とについて』P72~73
- 5-17 「多数者」の意味と欺瞞との闘い
 第25巻『立憲的幻想について』P216~219 1917年7月26日(8月8日)に執筆
- 6 選挙・議会と議会闘争
- 6-1 政治を選挙の時だけ、ドブ板だけにするな! **重要**
 第四巻『われわれの運動の緊要な諸任務』P403~404 1900年11月前半に執筆
 労働者党が選挙で努力しなければならないこと
 第11巻「社会民主党と国会選挙」P460~461 1907年1月13~14(26~27)日に執筆
- 6-2 国会と民主主義者 **重要**
 第12巻『国会と予算の承認』P305 1907年3月27日
- 6-3 第三国会と第四国会の選挙法 6月3日(1907年6月3(16)日)の選挙法を指す。
 第36巻 事項訳注P767

- 6-4 国会を革命的・社会民主主義的に利用すること **重要**
 第 15 卷『「プロレタリア」拡大編集局会議』P427~430
 1909年6月12-13(25-26)日に執筆
- 6-5 国会内の直接の「立法」活動と煽動・批判・宣伝・組織との関係 **重要**
 ページ等不明
- 6-6 選挙で重要なこと ペテルブルグの選挙のために (覚え書) **重要**
 第 16 卷『ペテルブルグの選挙のために』P14~15 1909年9月5(18)日
- 6-7 選挙カンパニアと選挙綱領について **重要** 1911年10月18(31)日
 第 17 卷『選挙カンパニアと選挙綱領について』P286~289
 労働者民主主義派の選挙スローガン 1912年7月末に執筆
 第 18 卷『ペ・ベ・アクセリロードは解党派をどう暴露しているか』P182
- 6-8 「革命的でない情勢」のもとでの共産主義者のたたかい方 **重要**
 第 31 卷『共産主義内の「左翼主義」小児病』P86~89、105
 1920年4月~5月に執筆
- 6-9 議会活動の意義 **重要** 1920年7月19日~8月7日
 第 31 卷『共産主義インタナショナル第二回大会』P248~250

7 党史

- 7-1 1840年代~マルクス、エンゲルスに
- 7-2 1883
- 7-3 1900年~1904年
- 7-4 血の日曜日と戦艦「ポチョームキン」
- 7-5 1905年~
- 7-6 1906.4~
- 7-7 1907.4~
- 7-8 1910.1~
- 7-9 第二インタナショナルの各大会等
- 7-10 1913.9~
- 7-11 1917年~
- 7-12 1917.10.24~
- 7-13 1918.3~
- 7-14 ロシア共産党史についての覚え書き(1921.12.1)
- 7-15 誌・紙

8 経済闘争・政治闘争・理論闘争、改良と革命、修正主義・日和見主義争

- 8-1 素町人的社会主義者と社会民主主義者 **重要**
 第一卷『「人民の友」とはなにか』P302~303、311
- 8-2 「こまごました努力」に対する態度とその位置付け **重要**
 第一卷『ナロードニキ主義の経済学的内容』P393~394

- 8-3 ナロードニキ主義の3つの特徴 1897年末に流刑地で執筆
第二巻『どういう遺産をわれわれは拒否するか』P512~515
- 8-4 グレード（経済主義者）のポイント **重要**
第四巻『ロシア社会民主主義者の抗議』P183~189 1899年8~9月執筆
- 8-5 経済闘争を階級闘争に！
第四巻『われわれの当面の任務』P230~231 1899年の後半に執筆
- 8-6 まだ政治闘争をするまでに成熟していない！ 1899年末に執筆
第四巻『プロフェション・ドゥ・フォア〔信仰告白〕』について P308
- 8-7 政治的、民主主義的課題の闘い方 —「憲法」とさげふ前提と意義—
第四巻小冊子『ハリコフのメーデー事件』序文P397~399 1900年11月初めに執筆
- 8-8 「終局目標」をつねに念頭におき…… **重要** 1901年6月に執筆
第五巻『ゼムストヴォの迫害者たちと自由主義のハンニバルたち』P65
- 8-9 政治的民主主義の道をとおらずに **重要** 1905年6-7月に執筆
第9巻「民主主義革命における社会民主党の2つの戦術」P16~17
- 8-10 働きかける対象の重心を移すこと 1905年9月末に執筆
第9巻『ねむっているブルジョアジーと目ざめたブルジョアジー』P362~363
- 8-11 経済闘争、政治闘争、理論闘争の結びつき
第34巻『エス・イ・グセフへ』P394~398
- 8-12 目先の成果への見方 **重要**
第10巻「カデットの勝利と労働者党の任務」P262 1906年3月28日
- 8-13 ブルジョア的「改良」と革命的社会民主主義者の改良 **重要**
第11巻『エーホ』第六号 1906年6月28日
- 8-14 アンテグラリスト社会主義者
第14巻 事項訳注 P443~444
- 8-15 修正主義について おそくも1908年4月3（16）日に執筆
第15巻『マルクス主義と修正主義』P20~22
- 8-16 経済闘争の意義 1912年5月31日
第18巻『経済的ストライキと政治的ストライキ』P78~79
- 8-17 階級闘争の客観主義 ——階級の利益と変革の力—— **重要**
第18巻 P350~353『政治方針について』 1912年9月18日
- 8-18 思想の社会的意義と言葉の外皮
第18巻『ナロードニキ主義について』P560~561 1913年1月20、22日
- 8-19 資本主義社会における技術と科学の進歩 ——スエットシステム——
第18巻『汗を搾りだす「科学的」方式』P642 1913年3月13日
- 8-20 「改良」について 1913年8月27日
第19巻『ロシアのブルジョアジーとロシアの改良主義』P344
- 8-21 プロレタリアートの階級闘争の戦術
第21巻『カール・マルクス』P63、67 1914年7~11月に執筆
- 8-22 日和見主義とは 1915年5月後半~6月前半に執筆
第21巻『第二インタナショナルの崩壊』P242~243

- 8-23 闘争の形態は変わっても、その階級的内容は変わらない 1916年1-6月に執筆
第22巻『資本主義の最高の段階としての帝国主義』P292~293
- 8-24 ①改良主義的な改変と革命的な改変 **重要**
第22巻『自決にかかする討論の総括』P402~403 1916年7月に執筆
②われわれが賛成する改良の綱領は、
第23巻『プロレタリア革命の軍事綱領』P88~89 1916年9月にドイツ語で執筆
- 8-25 改良主義者、エセ社会主義者
フェビアン派、デューリング、カール・オイゲン(1833~1921年)
- 8-26 ①経済闘争の中から政治闘争の芽を! **重要**
第二七巻『きびしいが、必要な教訓』P55 1918年2月25日
②改良と革命
第29巻『第三インタナショナルの任務について』P516 1919年7月14日
- 8-27 共産主義内の「左翼的」な潮流への対応について
第31巻『共産主義インタナショナル第二回大会の基本的任務についてのテーゼ』
P191-193、1920年7月4日 1920年7月発表
第31巻『共産主義インタナショナル第二回大会』P224 1920年7月19日-8月7日
- 8-28 革命前と後の改良と革命の位置づけ 1921年11月5日
第33巻『現在と社会主義の完全な勝利ののちの金の意義について』P106~107
- 9 民主主義と社会主義
- 9-1 なぜ社会民主主義者となれるのか **重要** 1905年11月7日(10月25日)
第9巻「小ブルジョア社会主義とプロレタリア社会主義」P470~471
- 9-2 「平等の思想」について **重要**
①「平等の思想」についてI 1907年4月5日および7日
第12巻『ロシア革命の強さと弱さ』P358~360
②「平等の思想」についてII 1907年11月~12月に執筆
第13巻『1905~1907年のロシア革命における社会民主党の農業綱領』P232~233
- 9-3 社会主義革命と民主主義のための闘争I **重要** 1916年1~2月に執筆
第22巻『社会主義革命と民族自決権』P166~168
- 9-4 社会主義革命と民主主義のための闘争II **重要** 1916年8月~9月に執筆
第23巻『ペ・キエフスキー(ユ・ピャタゴフ)への回答』P16~20
- 9-5 社会主義の多様な形態 **重要** 1916年8月~10月執筆
第23巻『マルクス主義の戯画と「帝国主義的経済主義」とについて』P70~72
- 9-6 社会主義に不可欠な民主主義 **重要** 1916年8月~10月執筆
第23巻『マルクス主義の戯画と「帝国主義的経済主義」とについて』P76~77
- 9-7 出版の自由についての決議案 **重要** 1917年11月4(17)日に執筆
第26巻『出版の自由についての決議案』P288~289

- 9-8 ①社会主義の任務は、すべての生産手段を全人民の所有に移すこと **重要**
 第 42 卷『人民委員会議の会議での発言』P46～47 1918 年 3 月 4 日
- ②社会主義社会は単一の大きな協同組合
 第 28 卷『モスクワ党活動家会議』P234 1918年11月27日
- 10 統一戦線とプロレタリアートのヘゲモニー
- 10-1 統合＝共闘の原則
 第五卷『ゼムストヴォの迫害者たちと自由主義のハンニバルたち』P67
- 10-2 ブルジョアジーが尻ごみしないように…… **重要** 1905 年 6-7 月に執筆
 第九卷「民主主義革命における社会民主党の二つの戦術」P92～93
- 10-3 プロレタリアートのヘゲモニーについて **重要**
 第 17 卷『わが解散論者たち』P68～68 1911年1月および2月
- 10-4 「統一」と「要求実現」の考え方 **重要** 1912 年 6 月 10 日
 第 18 卷『われわれと自由主義者との論戦の性格と意義について』P126～128
- 10-5 ロシアの革命的社会民主主義者の妥協 **重要** 1920 年 4 月～5 月に執筆
 第 31 卷『共産主義内の「左翼主義」小児病』P56～62
- 10-6 統一戦線戦術の意義 この抜粋は「10-6 閉ざされた会場にはいりこむ」と同文。
 第 33 卷『われわれは払いすぎた』（電話による口述）P344 1922年4月9日
- 11 民主主義派と自由主義派
- 11-1 他党（「人民の権利」党＝のちのエス・エル）に対する評価
 第一卷『「人民の友」とはなにか』P347～348
- 11-2 小ブルジョアの特質 **重要**
- ①小ブルジョアの戦い方
 第一卷『ナロードニキ主義の経済学的内容』P367
- ②小ブルジョアの限界
 第一卷『ナロードニキ主義の経済学的内容』P406
- ③町人＝「小ブルジョア」の経済学的意味
 第一卷『ナロードニキ主義の経済学的内容』P426
- ④分配の不均等性のうちに悪の根源をみいだす小ブルジョアジー
 第一卷『ナロードニキ主義の経済学的内容』P531
- ⑤経済学的ロマン主義者とマルクス主義者の「見地」の差
 第二卷『経済学的ロマン主義の特徴づけによせて』P148 1897 年 3 月執筆
- 11-3 民主主義派についての特長づけ **重要**
 第一卷『ナロードニキ主義の経済学的内容』P482～483
- 11-4 ブルジョア啓蒙思想家の評価 97 年末に流刑地で執筆
 第二卷『どういふ遺産をわれわれは拒否するか』P501～504
- 11-5 小生産者（小ブルジョアジー）と資本家の共通性
 第三卷『工業における資本主義の最初の段階』P342～344

- 11-6 小経営主に対する態度——農業問題を通じて **重要**
 第四巻『わが党の綱領草案』P258~268 1899年の後半に執筆
- 11-7 経済闘争に対するブルジョア政治家と社会主義者 1899年末に執筆
 第四巻『「プロフェシオン・ドゥ・フォア〔信仰告白〕」について』P316
- 11-8 プロレタリアートと小生産者との関係 **重要** 1902年2月末～3月はじめに執筆
 第六巻『プレハーノフの第二次綱領草案にたいする意見』P34~40
- 11-9 民主主義派と自由主義派の違い
 ①『カデットと民主主義派』から
 第18巻『カデットと民主主義派』P235~236 1912年7月26日
 ②『カデットと農業問題』から
 第18巻『カデットと農業問題』P290~291 1912年8月19日
- 12 ブルジョアジーのふりまく幻想と資本主義の原動力
- 12-1 ①ブルジョアジーのふりまく幻想 1901年6-9月に執筆
 第五巻『農業問題と「マルクス批判家」』P186
 ②マスコミについて 1901年10月に執筆
 第五巻『国内評論』P295
- 12-2 物笑いの種にならずに 1912年9月15-20日(9月28-10月3日)のあいだに執筆
 第36巻『カデットはなにをかかけて選挙にのぞむか?』P202~203
- 12-3 ブルジョア国の選挙はみな、 **重要**
 第36巻『労働者の統一と選挙』P204~206 1912年9月末に執筆
- 12-4 あらゆるブルジョア改良主義的潮流のなかには二つの流れがある。
 第36巻『アメリカにおける選挙のその後』P222~223
 1912年11月26日(12月9日)以前に執筆
- 12-5 ブルジョア社会の「出版の自由」 **重要** 1917年9月28(15)日
 第25巻『憲法制定議会の成功をどうやって保障するか』P404~405
- 12-6 各人は自分のために……
 第28巻『全ロシア中央執行委員会、モスクワ・ソヴェト、労働組合
 全ロシア大会の合同会議での演説』P425 1919. 1. 17
 第28巻『すべてを食料調達活動と輸送活動に傾注せよ!』P475 1919年1月28日
- 13 革命的情勢と蜂起
- 13-1 ①1905年のロシアにおける蜂起の意義
 第九巻「議会遊び」 P286~287 1905年9月26(13)日
 ②蜂起の直接の呼びかけの時
 第9巻『「イスクラ的」戦術の最後の言葉』 P390~391 1905年10月17日
 ③革命における先進的な階級の任務
 第11巻「メンシェヴィズムの危機」 P353 1906年12月7日
- 13-2 革命的情勢 その1 1913年6月15(28)日
 第19巻『革命的プロレタリアートのメーデー』P223~227

- 13-3 革命的情勢 その2 1915年5月後半～6月前半に執筆
第21巻『第二インタナショナルの崩壊』 P208~209
- 13-4 革命的情勢と社会民主主義者の任務 1915年末に執筆
第21巻『日和見主義と第二インタナショナルの崩壊』 P464~467
- 13-5 武装蜂起の勝利の条件
第41巻『政治情勢』 P563~565 1917年7月10(23)日に執筆
- 13-6 ①蜂起が成功をおさめるためには 1917年9月13~14(26~27)日に執筆
第26巻『マルクス主義と蜂起』 P7~11
②蜂起を提起する条件 1917年10月1日
第26巻『ボリシェヴィキは国家権力を維持できるか?』 P127
③戦闘術としての蜂起の主要なポイント 1917年10月8(21)日に執筆
第26巻『一局外者の助言』 P178
- 13-7 総攻勢が近ければ近いほど(4-33と同文) 1921年7月11日
第42巻『共産主義インタナショナル第3回大会』 P434~440
- 13-8 果実が完全に熟するまで…… 1921年10月19日
第42巻『ポーランドの共産主義者への手紙』 P484~486
- 14 独裁・ソヴェト権力、社会主義の政治・経済、官僚主義
- 14-1 商品生産を社会的生産の新しい制度でおきかえる
第六巻 ロシア社会民主労働党綱領草案 P14 1902年1月末～2月初めに執筆
- 14-2 コミューンの仕事のマイナスとプラス 1904年3月9(22)日以前に執筆
第41巻『パリ・コムユーンにかんする講演の摘要三篇』 P111~116
- 14-3 独裁とは(9-5と同文) 1916年8月～10月執筆
第23巻『マルクス主義の戯画と「帝国主義的経済主義」とについて』 P70~72
- 14-4 革命期の国家
第23巻 P358~365 「遠方からの手紙」 1917年3月11(24)日
第23巻 P392~393 『ロシア革命におけるロシア社会民主労働党の任務について』
1917年3月15～16日(28～29日)に執筆
- 14-5 プロレタリアートの独裁
第25巻 『軽信という伝染病』 P58~60 1917年6月21(8)日
- 14-6 社会主義への具体的な道は幾千万人の経験が示す
第25巻 『政論家の日記から』 P306~307 1917年9月11日(8月29日)
- 14-7 社会主義は現代資本主義のすべての窓からわれわれをながめている
第25巻 『さしせまる破局、それとどうたたかうか』 P386~387 1917年9月10~14日
- 14-8 革命後の断固たる方針 1917年11月2(15)日に執筆
第44巻 『ロシア社会民主労働党(ボ)ペトログラード委員会へ』 P1~2
- 14-9 われわれは、ヨーロッパにおける社会主義の勝利に賭ける
第二七巻 『きびしいが、必要な教訓』 P54~56 1918年2月25日
- 14-10 ソヴェト権力の意義
第27巻 『第七回大会(ボ)ロシア共産党』 P81~138 1918年3月6~8日

- 14-11 ①ソヴェト権力の当面の任務
 第42巻『論文『ソヴェト権力の当面の任務』の最初の案文』P53～57
 ②生産の科学的組織の最新の到達点の活用一例テーラーシステムーについて
 第42巻『論文『ソヴェト権力の当面の任務』の最初の案文』P65～66
 ③社会主義建設に必要な組織能力
 第42巻『論文『ソヴェト権力の当面の任務』の最初の案文』P66～68
 ④社会主義革命における主要な任務 1918年3～4月に執筆
 第27巻『ソヴェト権力の当面の任務』P242～243
- 14-12 ロシアにおける社会主義建設のステップ（14-11の続き）
 第27巻『ソヴェト権力の当面の任務』P243～252 1918年3～4月に執筆
- 14-13 食料徴発隊のモラル 1918年5月31日に執筆
 第44巻『九六 ヴィクサの労働者たちへの電報』P80
- 14-14 社会主義の完全な勝利をもたらさうる変革 1919年1月20日
 第28巻『労働組合第二回全ロシア大会での報告』P452～453
- 14-15 厳正・公平な対応を心がけるレーニン 1919年3月4日に執筆
 第44巻『エリ・ア・フォチエヴァへ』P229
- 14-16 革命の恒常的本性・勝利の深い源
 第29巻『全ロシア中央執行委員会特別会議でのヤ・エム・スヴェルドロフを追悼する演説』 1919.3.18
- 14-17 共同耕作への強制措置は絶対に許されない 社会主義建設の方法について
 第44巻 P243『クニャギニン郡土地部への電報』 1919年4月8日に執筆
- 14-18 ロシアがプロレタリア革命をはじめることがたやすかった理由と革命的プロレタリア・インタナショナルの主導権が一時的にロシア人の手にうつった理由
 第29巻『第三インタナショナルとその歴史上の地位』P308～309 1919.4.15
- 14-19 住民の慣習となっている古風な遺制については…… 社会主義建設の方法について
 第44巻『南部戦線革命軍事会議への電報』P292～293 1919年6月3日に執筆
- 14-20 新しい芽生え、悪循環を打ちきる力、社会主義を勝利させる高い労働生産性
 第29巻『偉大な創意』P429～431 1919年7月
- 14-21 ①ソヴェト権力の二カ年の最も重要な二つの教訓
 第三〇巻『ソヴェト権力の二カ年』P116～117 1919年11月7日
 ②全ロシア中央執行委員会の構成について 1919年11月29日に執筆
 第42巻『全ロシア中央執行委員会の構成についての決定草案』P181～182
 ③憲法制定会議の選挙とプロレタリアートの独裁 1919年12月16日
 第三〇巻『憲法制定会議の選挙とプロレタリアートの独裁』 P251～276
- 14-22 プロレタリアートの独裁の条件 1920年2月14日
 第30巻『政論家の覚え書』P366～367
- 14-23 農村での社会主義の勝利のための条件 1920年6月はじめに執筆
 第31巻『農業問題についてのテーゼ原案』P150～152
- 14-24 個人崇拜についてのレーニンの厳しい態度(20-2と同一文) 1920年7月31日執筆
 第42巻『ゴーリキーの諸論文についての党政治局の決定』P267～278

- 14-25 第9回全国協議会時点での革命の到達点 1920年9月24日
第42巻『ロシア共産党(ボ)第9回全国協議会』P270~276
- 14-26 科学・技術の発展の重要性について
第四五巻『最高国民経済会議皮革工業総管理局へ』P5 1920年11月12日に執筆
第四五巻『最高国民経済会議科学技術部発明課へ』P6 1920年11月13日に執筆
- 14-27 コミュニオンについて 1921年1月20日
第45巻『プロレタリア駅の労働者、職工、職員、共産党細胞へ』P39~40
- 14-28 農民大衆の信頼を回復するため 1921年3月1日
第45巻『エヌ・オシンスキーへ』P64~65
- 14-29 中農を満足させるための新経済政策と地方的取引停止の誤り
第32巻「ロシア共産党(ボ)第十回大会」(1921年3月8日~16日)
「六割当徴発を現物税に代えることについての報告3月15日」P230~233
- 14-30 党外労働者にたいする態度について 1921年4月、おそくとも27日に執筆
第42巻『党外労働者にたいする態度についての手紙の草案』P396~397
- 14-31 官僚主義との闘争には、(2-21と同一文)
第35巻『エム・ソコロフへ』P540~541 1921年5月16日に執筆
- 14-32 企業の配置、企業の経営
①もっともよい企業だけを残すべきである 1921年9月12日
第45巻『すべての州および県経済会議への電報』P352
②なぜ国営商業は負かされるのか 1922年5月15日に執筆
第45巻『スターリンとフルムキンへの手紙と秘書への依頼』P713-714
- 14-33 ロシア革命——ブルジョア民主主義革命から社会主義革命へ——
第33巻「十月革命四周年によせて」P37~41 1921年10月14日
注)本文と17-3、4-34で「十月革命四周年によせて」の全文。
- 14-34 革命の三つの社会主義的な仕事 1921年11月6~7日
第33巻『現在と社会主義の完全な勝利ののちの金の意義について』P102~103
- 14-35 ①内密に、おろかしくもみけすよりも…
第36巻『ヴェ・ア・アヴァネソフ、デ・イ・クルスキー、
ア・デ・ツュルーパーへの筆記電話』P660 1921年12月13日
第36巻『ペ・ア・ボグダーノフへ』P661~663 1921年12月23日
②共産主義者の官僚主義者
第35巻『財務人民委員部へ』P607 1922年2月22日と28日に執筆
- 14-36 幹部の選抜について 1921年12月24日に執筆
第45巻 P530~531『イエ・エム・ヤロスラフスキーへ』
- 14-37 新経済政策のもとでの戦闘の方法と組織 1922年2月20日に執筆
第45巻『新経済政策のもとでの司法人民委員部の任務について』P611-617
- 14-38 ソヴェト国家の現状 1922年3月27日以前に執筆
第36巻『1922年3月27日の演説のプラン』P676~680
- 14-39 地方的経験の正しい公表と正しい評価の必要性
第36巻『エヌ・オシンスキーへ』P683~684 1922年4月12日

- 14-40 「軍事スパイ」をつかまえ、国外に追放する 1922年5月19日に執筆
第45巻『エヌ・エ・ジェルジンスキーへ』P721-723
- 14-41 ゴーリキーの「情勢認識」について
第45巻『エヌ・イ・ブハーリンへ』P733-734 1922年9月7日に執筆
- 14-42 人材の配置について 1922年12月8日に電話で口述
第45巻『イ・ヴェ・スターリンへ』P780-781
- 14-43 まったくなくなっていないわれわれの機関の改善のために
第36巻『大会への手紙』P705-707 1922年12月26日
- 14-44 国家の人民統制の手段としての労農監督部 4-37にも一部収録
第36巻『(中央委員の増員について)』P713-714 1922年12月29日
第42巻『論文『われわれは労農監督郎をどう改組すべきか』の資料』P610-618
1923年1月9日と13日に口述
- 14-45 ソヴェト国家はどうしたら持ちこたえることができるか
第33巻『量はすくなくても、資のよいものを』P522-524 1923年3月2日
- 15 新経済政策のもとでの労働組合の役割
- 15-1 新経済政策の諸条件のもとでの労働組合の役割と任務について
第42巻『新経済政策のもとでの労働組合の役割と任務についてのテーゼ草案』P520-532
1921年12月30日から1922年1月4日のあいだに執筆、1922年1月17日、若干の変更をくわえて『プラウダ』第12号に発表
- 15-2 新経済政策の諸条件のもとでの労働組合の役割と任務について
第33巻『新経済政策の諸条件のもとでの労働組合の役割と任務について』P182-193
1921年12月30日-1922年1月4日に執筆
- 16 経済学、帝国主義について
- 16-1 「いわゆる市場問題について」の3つの結論
第一巻「いわゆる市場問題について」P96-103 1893年秋
- 16-2 「市場」についての青山の考え方
第一巻「人民の友」とはなにか P214
- 16-3 資本主義社会の生産
第二巻『経済学的ロマン主義の特徴づけによせて』P143-144 1897年3月執筆
- 16-4 資本にとって外国市場が必要な理由
第二巻『経済学的ロマン主義の特徴づけによせて』P147
- 16-5 ①恐慌についての二つの考え
第二巻『経済学的ロマン主義の特徴づけによせて』P150-151,154-155
②生産と消費の矛盾について 1898年11月半ばに最初の二章が完成
第三巻『ロシアにおける資本主義の発展』P33-35

- 16-6 ①過剰人口＝労働予備軍について
 第二卷『経済学的ロマン主義の特徴づけによせて』 P164~166
- ②流浪労働
 第三卷 『ロシアにおける資本主義の発展』 P325~327
- ③労働予備軍
 第三卷 『ロシアにおける資本主義の発展』 P576
- 16-7 ①資本主義にとっての外国市場の必要性 その1
 第三卷『ロシアにおける資本主義の発展』 P43~45
- ②資本主義にとっての外国市場の必要性 その2
 第三卷『ロシアにおける資本主義の発展』 P626~627
- 16-8 植民地とはなにか？
 第三卷『ロシアにおける資本主義の発展』 P627
- 16-9 工業の発展の三つの段階
 第三卷『ロシアにおける資本主義の発展』 P574~579
- 16-10 マルクスの表式のもつ意味
 第四卷『市場理論の問題への覚え書』 P60
 マルクスの実現理論とマルクスの理論の科学的価値
 第四卷『ふたたび実現理論の問題によせて』 P85~87,91
 理論的な経済学的分析は総じて傾向しかとりあつかうことができない
 第四卷『農業における資本主義』 P122
- 16-11 農業問題 I
 農民の中で何を主張すべきか
 第四卷『労働者党と農民』 P463~467 1901年2月に執筆
- 16-12 農奴制的経済制度と資本主義的経済制度 1908年（新暦）7月1日
 第15卷『十九世紀末のロシアにおける農業問題』 P66~67
- 16-13 帝国主義の定義
 第23卷『帝国主義と社会主義の分裂』 P112~114 1916年10月に執筆
- 16-14 レーニンのケインズの引用 1920年7月19日～8月7日
 第31卷『共産主義インタナショナル第二回大会』 P210~217
- 16-15 資本主義的發展段階を飛び越えて共産主義へうつる
 第31卷『共産主義インタナショナル第二回大会』 P237
- 16-16 帝国主義論ノート その1 第39卷 1915—1916年に執筆
 テーラー《経営管理》（P121～122）、各帝国主義の位置関係、帝国主義の問題によせて（P166）、社会主義のための闘争、改良と革命、日本対イギリス（P369～371）、日本と連合王国との比較（P467～534）
- 16-17 外国の賃金圧迫者とインタナショナル 第39卷『帝国主義論ノート』
 ノート《マルクス主義と帝国主義について》 P511—512
- 16-18 各国の植民地領土、各国語、各国の面積 等 第39卷『帝国主義論ノート』
 各国の植民地領土（P432）、各国の言語を使う人の数（P435）、世界史の重要事件、各国の面積・人口・人種（P650～687）

- 16-19 新世界のための競争とイギリスの膨張 第39巻『帝国主義論ノート』
ノート《マルクス主義と帝国主義について》P628-630
- 16-20 勝利したプロレタリアートは…エンゲルスの手紙 第 39 巻「帝国主義論ノート」
ノート《帝国主義》P640-641
- 17 平和、軍国主義、戦争
- 17-1 軍国主義と反軍国主義的戦術 1908年7月23日（8月5日）
第 15 巻『好戦的軍国主義と社会民主党の反軍国主義的戦術』P178~183
- 17-2 戦争をどう評価するか 1916年8月～10月に執筆
第 23 巻 P26~27『マルクス主義の戯画と「帝国主義的経済主義」とについて』
- 17-3 帝国主義戦争を内乱に転化せよ 本文と4-34. 14-33で「十月革命四周年によせて」
の全文
第 33 巻「十月革命四周年によせて」P41~44 1921年10月14日
- 17-4 戦争の危険とどうたたかうか 1922年12月4日
第 33 巻『わがハーグ代表団の任務の問題についての覚え書』全文P466~470
- 18 民族問題、帝国主義戦争と民族解放闘争
- 18-1 ①民族問題に関するレーニンの考え 1913年11月23日（12月6日）に執筆
第 19 巻『シャウミャンあての手紙』P538~541
②ロシア社会民主労働党の民族綱領について 1913年12月15(28)日
第 19 巻『ロシア社会民主労働党の民族綱領について』P586~590
- 18-2 「民族文化」一般の階級的性格
第 20 巻『民族問題についての論評』P8~9 1913年10～12月に執筆
- 18-3 民族自決からみた三つの国家型 1916年1～2月に執筆
第 22 巻『社会主義革命と民族自決権（テーゼ）』P174~175
- 18-4 部分は全体に従属する
第 22 巻『自決にかんする討論の総括』P398~406 1916年7月に執筆
- 18-5 幸福を他民族におしつけるなら
第 22 巻『自決にかんする討論の総括』P411~41 1916年7月に執筆
- 18-6 世界の民族構成（「統計と社会学」からの抜粋）
第 23 巻『統計と社会学』P302~3 1916~1917年に執筆
- 18-7 帝国主義戦争と民族戦争
第 35 巻『ゲ・ジノヴィエフへ』P237～238 1916年8月に執筆
- 18-8 プロレタリアートと民族戦争 1-24-2 と同一文章
第 35 巻『111 イネッサ・アルマンドへ』P262~263 1916年11月30日に執筆
- 18-9 革命を根本的に準備すること—プロレタリアートの多数者の獲得—と植民地における運動の意義
第 32 巻「共産主義インタナショナル第三回大会」（1921年6月22日～7月12日）
「四 ロシア共産党の戦術についての報告 七月五日」P511～514

18-10 民族問題への対応の重要性

第四五巻『ア・ア・ヨッフエへ』 P355-357 1921年9月13日に執筆

18-11 少数民族の問題または「自治共和国化」の問題によせて 1922年12月30日-31日

第36巻『少数民族の問題または「自治共和国化」の問題によせて』 P715~722

19 日本について、日露戦争、日本と米国

19-1 日・露戦争に係るレーニンの見方

①「専制とプロレタリアート」から

第八巻『専制とプロレタリアート』 P10-11 1905年1月4日 (1904年12月23日)

②「旅順の陥落」から

第八巻『旅順の陥落』 P38~41 1905年1月14(1)日

③バルト艦隊の「壊滅」について

第八巻『壊滅』 P486~487 1905年6月9日 (5月27日)

19-2 アメリカの「未来の対日戦争の準備」

第24巻『戦争と革命』 P444 1917年5月14日(27日)の講演

19-3 日本軍部隊のウラヂヴォストック上陸について 第44巻 P48~49

①五九 シベリア・ソヴェト中央執行委員会への電報 1918年4月5日に執筆

②六〇 シベリア・ソヴェト中央執行委員会へ 1918年4月6日に執筆

19-4 日本のソヴェト攻撃の可能性

第27巻『全ロシア中央執行委員会とモスクワ・ソヴェトの合同会議』 P374~375

この新聞報告は、1918年5月15、16日の『プラウダ』に発表された。

19-5 将来の日米戦争は避けられない 1920年12月6日

第31巻『ロシア共産党(ボ)モスクワ組織の活動分子の会合での演説』 P449~450

20 レーニンの考え方、人柄等

20-1 ①請求額が少なすぎる 公正を求めるレーニン 1919年7月19日に執筆

第44巻『モスクワ非常委員会経理部の請求書への書きこみ』 P329~330

②贈り物をやめるおねがい

第44巻『モスクワ代表ソヴェト食糧部農業課へ』 P344 1919年8月23日

20-2 個人崇拜についてのレーニンの厳しい態度(14-24と同一文) 1920年7月31日執筆

第42巻『ゴーリキーの諸論文についての党政治局の決定』 P267~278

20-3 請願や「斡旋」なら、却下してもいい

第四五巻『ゲ・イ・ボキーへ』 P287~288 1921年8月9日に執筆

20-4 ゴーリキーへの気づかい

第四五巻『ア・エム・ゴーリキーへ』 P288~289 1921年8月9日

20-5 レーニンのガレージへの支出について

第45巻『エフ・エ・ジェルジンスキーへ』 P723 1922年5月19日に執筆

21 レーニンの人物評

- 21-1 プレハーノフについてのレーニンの評価 1914年6月18日以後の執筆
第43巻「新聞『トルドヴァーヤ・プラウダ』編集局への手紙から」P502-504
- 21-2 ブハーリン、ソコリニコフ、ラーリンの評価
第44巻『ア・ア・ヨッフエへ』P81~83 1918年6月2日
- 21-3 トロツキーの能力評価 1921年8月11日に執筆
第45巻『党政治局員のためにヴェ・エム・モロトフへ』P289-290
- 21-4 スターリン、トロツキー等の評価と党組織上の対応について
①第36巻『大会への手紙』P702~705 1922年12月24日~1923年1月4日
②第36巻『ゴスプランに立法機能をあたえることについて』P708~712 2月27-29日
- 21-5 スターリンについて
①42巻『ソヴェト社会主義共和国連邦の結成について』P590~593
1922年9月22日に執筆
②第36巻『少数民族の問題または「自治共和国化」の問題によせて』P715~722
1922年12月30、31日 4-37〈大会への手紙 一極秘に！一〉にも収録

22、〈全集マメ知識〉言葉、ことわざ等

- 22-1 ウジェーヌ・ポティエ (その死去二十五周年によせて)
第18巻P666~668『ウジェーヌ・ポティエ』1913年1月3日
- 22-2 言葉、ことわざ等 まめ知識
- ①理解もせずに褒めるな、りっぱな言葉と空虚な内容との結合の手本
第一巻「人民の友」とはなにかP126~127 1894年春~夏
 - ②「地獄への這は善意で敷きつめられている」ということわざ
第一巻「人民の友」とはなにかP246
 - ③「プロクルストウスの寝台」
第一巻「人民の友」とはなにかP559~560
 - ④アルカディア
第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』P561
 - ⑤ゴルディウスの結び目を断ちきる
第一巻『ナロードニキ主義の経済学的内容』P563
 - ⑥イスクラ=火花
第二巻『わが大臣たちはなにを考えているか?』P74 1895年末執筆
 - ⑦cottage = 田舎小屋 そこに住む人=コテージャー
第2巻『経済学的ロマン主義の特徴づけによせて』P547
 - ⑧ピンダル
第三巻『ロシアにおける資本主義の発展』第三章P228 注P689
 - ⑨最後に笑うものはもっともよく笑う! [rira bien qui rira le dernier!]
第四巻『農業における資本主義』P129 1899年4月~5月執筆
 - ⑩政治的抗議が宗教的外装のもとに登場することは、
第四巻『わが党の綱領草案』P258

- ⑪「ハンニバルの誓い」
 第四巻『183人の学生の兵籍編入』P456 1901年1月に執筆
- ⑫キリストは力や処刑によってではなく、真理と愛によってもろびとの心を……
 第五巻『国内評論』P300 1901年10月に執筆
- ⑬ prius=先行物 第六巻 P29
- ⑭下層のものが戦い、上層のものが利用する。
 第8巻『政治的詭弁』P428 1905年5月18日
- ⑮ボナパルト主義
- ⑯批判の武器と武器の批判についてのマルクスの言葉
 第9巻 P90 事項訳注(P504)
- ⑰『ユマニテ』（『人道』） 第9巻 P93 事項訳注(P504)
- ⑱「悪口は論拠をもたない人間の論拠だ」というフランスの格言
 第9巻『腹を立てた無能力者』P154 1905年7月26日
- ⑲「悪魔の代言人」
- ⑳「すべての比喩は不完全である」というドイツの格言
 第10巻「党組織と党文献」 P31
- ㉑議会主義的クレチン病 第11巻 事項訳注 P513
- ㉒もし君が賢い人ならば、……
 第15巻『ロシア革命における社会民主党の農業綱領』 P155
- ㉓「どうぞお先に射ちたまえ、ブルジョア諸公！」〔選集、第17巻、405ページ〕
 第16巻『二つの世界』 P329
- ㉔「ここがロードス島だ、ここでとべ！」 Hic Rhodus, hic salta!
 第16巻 事項訳注 P477
- ㉕ヘロストラトス式に有名な 第16巻 事項訳注 P480
- ㉖サウロのパウロへの転化 第16巻 事項訳注 P484
- ㉗もし一かけらのパンをぬすめば監獄につながれるが、
 第17巻 P128 *マルクス・エンゲルスの著作にも同様の言葉がある。
- ㉘政治的権利とは勢力関係を定式化し記録したものである
 第17巻 P460『プロスヴェシチエニエ』第1号、1911年12月
- ㉙外国で見るもの
 第18巻『民主主義派にたいするさらに一つの戦役』P335
- ㉚ユートピア 第18巻 P380『二つのユートピア』
- ㉛ばかも7人よれば
 第19巻『ロシア社会民主労働党の民族綱領について』P588
- ㉜誤ちはだれでもやるが…… 第19巻 P597
- ㉝意識は存在に立ちおくれるものである。 第22巻 P208
- ㉞パリコミューンと婦人
 第23巻『プロレタリア革命の軍事綱領』P86
- ㉟「すべて戦争は別の手段による政治の継続である」
- ㊱アジ豆のあつもの 第25巻 P553 事項訳注

- ⑳好評は座し、悪評は走る 第27巻 P374～375
- ㉑資本主義社会の準則——「各人は自分のために、神だけが万人のために」
第28巻『すべてを食料調達活動と輸送活動に傾注せよ！』P425、475
- ㉒反復は学習の母である。 第31巻 P503
- ㉓「狼といっしょにくらすときは、狼のようにほえよ」「出陣のさいに自慢するな、帰陣のさいに自慢せよ」 第33巻P104
- ㉔「人間の欠点は、その長所と結びついているのが普通だ」 第33巻 P169

26 そのほかの事項